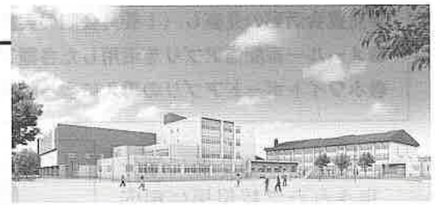
令和４年度　北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

１　報　告　地　区：旭川地区
２　事例報告学校名：旭川市立旭川小学校
３　報告者職・氏名：校長　佐　藤　栄　一
４　キ　ー　ワ　ー　ド：小中連携・一貫教育の推進



１　はじめに

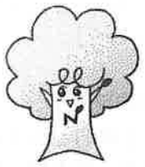
本校は、旭川市の東部地区に位置し、明治25年に屯田兵の入植により「旭川兵村」が開村し、同年設置の旭川西尋常小学校がルーツの開校131年目の学校である。

平成30年12月、旭川小学校の新校舎が落成し、旭川中学校と施設一体型校舎での小中連携・一貫教育がスタートした。

２　準備期（平成27年度～平成30年11月）

「旭川市小中連携・一貫教育推進プラン」で示された考え方、「子ども一人一人の学力や人間形成を図ることを目的として、９年間を見通した系統的な教育活動や小学校から中学校への円滑な接続を目指す教育」を土台に、旭川小学校・旭川中学校では、「組織の基本的な枠組みは残したまま、『９年間で目指す子ども像』を設定し、９年間の系統性を生かした教育活動の推進を目指す教育」に向けて、次のような準備を進めてきた。

○小中合同研修会（キャリア教育）
○乗り入れ授業（理科、英語、音楽、書写）
○合同検定会（漢検、英検、算数・数学）
○授業参観日の交流　○児童生徒の交流活動
○小中連携に関わる各種会議
（ＰＴＡ、管理職、コーディネーター、分掌代表等）
○教育課程（一部）の接続の試行
○小中連携イメージキャラクターの作成 ⇒
○学校評議員会の一本化
（あさひやま学校運営協議会）
○小学校保護者への高校説明会の案内配付
○小学校保護者への中学校ＰＴＡ行事の案内配付
○小中教職員意識調査の実施　など

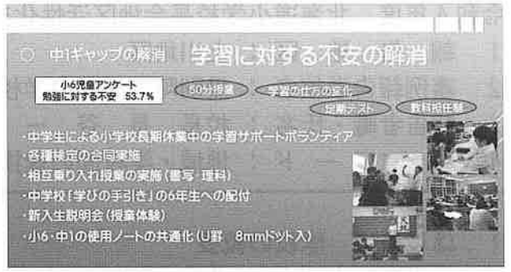


□児童会・生徒会の取組の交流

□乗り入れ授業の様子～中１年書写へ小学校教諭が指導

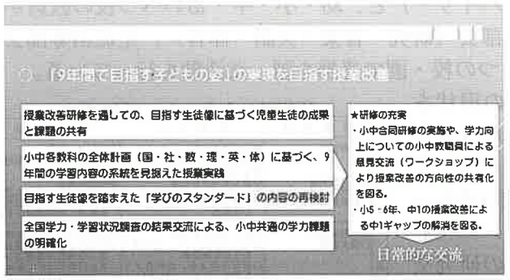
旭川小学校・旭川中学校　目指す子どもの姿					
教育目標		筋道をたてて考え自分で判断できる子ども	強い意志と美しく豊かな心を持つ子ども	常にからだをきたえる　たくましい子ども	みんなで手をつなぎ　未来を築く子ども
小学校		確かな学力	豊かな心	健やかな体	夢・自己有用感
		自ら進んで学ぶ子	自他のよさを認められる子	自ら心と体を鍛える子	目標や希望をもって取り組む子
	低学年	めあてを理解し自ら問題を解こうとする子	あいさつができ友だちと仲良くしようとする子	楽しく運動しきまりを守り安全に生活しようとする子	自分のよさに気付き目標をもって行動する子
	中学年	課題を見付け進んで考え解決しようとする子	進んで挨拶し相手のことを考えて行動しようとする子	目標をもって楽しく運動し健康・安全にすごそうとする子	個性伸長を図り目標実現に向けて粘張ろうとする子
	高学年	自ら課題をもち仲間とともに多面的に考え追求しようとする子	時と場に応じた挨拶ができ互いを思いやり温かい行動をしようとする子	あきらめない強い気持ちで運動し健康・安全のための的確な判断で行動しようとする子	自他を知り目標に向かい見通しをもって努力しようとする子
中学校		何事にも主体的・意欲的に挑むための活きた知恵をもつ生徒	広い視野に立ち他者を思いやりながら行動できる心豊かな生徒	自己実現に向けて最後までやり抜く強い心と体をもつ生徒	夢や希望の実現に向けよりよい生き方を目指す生徒

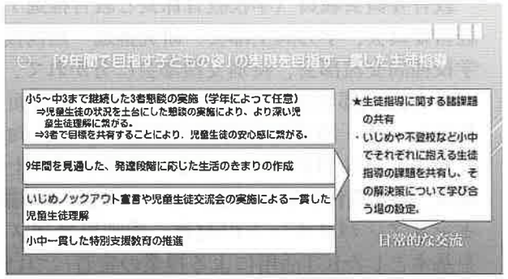
施設一体型校舎での小中連携・一貫教育においては、教育活動のつながりや一貫性の充実に加え、管理運営面の連絡調整も重要である。例えば、施設・設備の管理で共通する部分や別々の部分、分担する部分などの確認、共有で使用する部分についてのルールや割当など、多岐にわたる。そのため、校長、教頭、主幹教諭（小中連携コーディネーター）、各分掌の代表者は日頃から緊密に連携している。小中の全職員で組織する小中連携委員会では、年４回の定例会議を実施し、年度の重点的な取組について、計画、実践、評価、改善に努めている。



４　コロナ禍（令和２年度～）

令和元年度末から新型コロナウイルス感染症の拡大により、児童生徒の積極的な交流が難しくなるとともに、感染症防止対策の徹底と学びの保障の両立が最重要課題となった。





小中連携・一貫教育の要である教育活動のつながりに大きな制限が加わることによって、取組の停滞が見られたことは否めない。そのため、このような状況下でも持続可能なものとして、授業改善（研修の充実）と、一貫した生徒指導の２つに絞って、日常的な取組の充実に努めた。

５　おわりに

制限の多い日常ではあるが、今後も子どもたちの未来のために、９年間の学びの連続性を重視した教育活動の工夫改善と学校運営の充実に取り組んでいきたい。